

Aprire



秋田大学広報誌〈アプリーレ〉

No. 53
2016

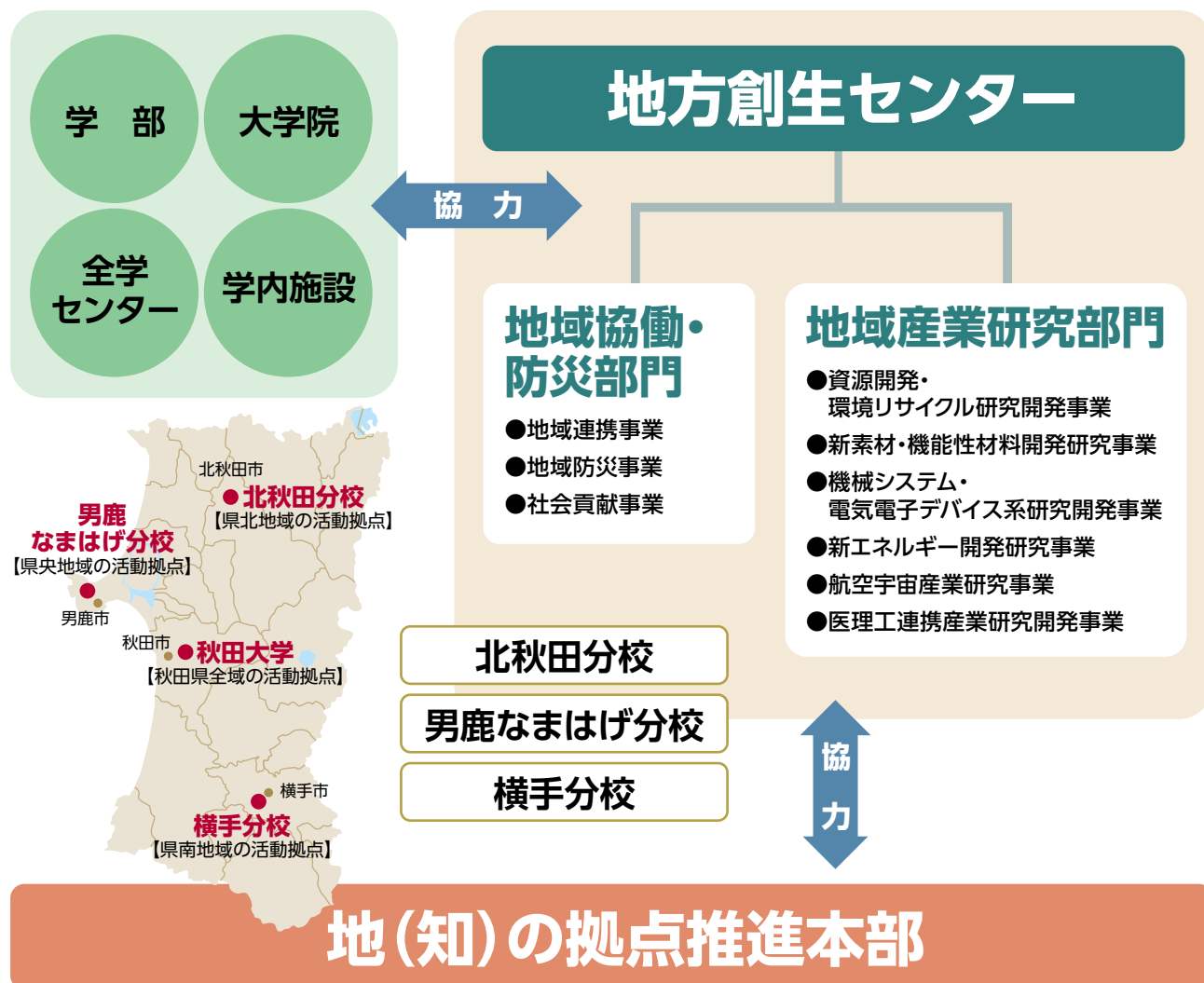


特集

地方創生

特集 地方創生

地方創生センター新設



地域と連携し、地域の活性化と発展等に寄与することを旨とし、地域協働、地域防災の事業を担っていた「地域創生センター」と、新産業創出のための独創的な研究開発推進や若手研究者の育成、産学官連携活動の促進など「新産業創出、人材育成」事業の役割を担っていた「ベ

ンチャー・ビジネス・ラボラトリー」「ベンチャーインキュベーションセンター」等の既存の施設を再編統合し、秋田大学は平成28年4月、新たに「地域協働・防災部門」及び「地域産業研究部門」の2部門からなる「地方創生センター」を設置しました。

秋田大学地方創生センターは、地方創生に取り組み、地（知）の拠点大学として、地域との協働による地域振興策及び地域防災等の研究・支援並びに地域産業の成長に資する研究を推進し、地域を担う人材育成の推進と地域の産業振興、活性化に貢献します。

地域産業研究部門は、秋田県が産業・エネルギー戦略として掲げる「金属リサイクル」「自動車産業」「新エネルギー」「航空機産業」「医療工連携」などに対応した6つの事業を設置して地域産業振興策や地域課題解決に寄与することを目的としています。各事業には代表を置き、それぞれの使命を踏まえ、研究の側面から地域産業振興に取り組んでいきます。

地域産業研究部門

また、地域防災について戦略的かつ組織的に調査・研究し、秋田県内各自治体及び県民へ発信することにより、秋田県や日本海側北部で地震災害が発生した場合でも地域住民自らが防災活動を行い災害に強い地域を形成できるよう、小中学校・自治体・企業等での講演会や出前授業等を通じて、県民の安全・安心のための知的資源の提供を目的として活動しています。

地域協働・防災部門は、生涯学習・地域連携・地域貢献・分校運営等により、地域の特性と大学の教育資源を融合させて、地域との協働による地域振興活動に取り組む、地域を担う人材育成を推進し、地域の方々と共に「地域の活性化」に貢献することを目的として活動しています。

地域協働・防災部門

事業内容紹介

秋田大学地域交流朝市

秋田大学と連携協定を締結している県内自治体からご協力いただき年に2回（春・秋）「秋田大学地域交流朝市」を開催しています。この朝市は、地方創生に関心を持つ秋田大学の学生と県内各地域の地場産業に携わる方や自治体職員が協力して特産品の販売や地域のPRを行うもので、大学近隣にお住まいの方が気軽にキャンパスを訪れる機会とし、地域交流の輪を広げることなどを目的として行っています。



秋田大学子ども見学デー

毎年夏休みの時期（8月上旬）に、小学生とその保護者の方を対象として「秋田大学子ども見学デー」を実施しています。普段なかなか見る機会のない大学の研究室や実験室、図書館などの施設見学のほか、楽しくワクワクする様々な実験・体験コースを10コースほどご用意しています。例年定員を超える多数の申し込みがあり、毎年応募される方もいる人気企画となっています。



秋田大学ぼうさい教室

秋田県内小中学生や保護者の方を対象に、秋田県の地震や津波について学び、地震が起きた時に命を守るための適切な行動をとれるよう夏休み期間や土日祝日に開催している教室です。県内の活断層や地震の痕跡をバスで巡りながら解説する防災巡検ツアー、児童・生徒が自分たちの暮らす地域を知るための防災マップづくりなど、従来の座学だけでは学べない実践的なプログラムを用意し、地域防災力向上を目指します。



メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト

秋田大学の各学部の教員が、医学やそれに関わる理工学、臨床心理学などについて分かりやすく解説し、参加者の方々と自由に意見交換を行う場として「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」を県内の連携自治体各地で開催しています。サイエンスカフェは、医学や科学の世界に興味をお持ちの市民の皆さんとの交流の場として、気軽に訪れていただけるよう「喫茶店」スタイルで行っている講演会です。



地(知)の拠点大学による 地方創生推進事業 COC+

～学生の地元就職率10%UPを目指して～

《秋田大学の取り組み》
「超高齢・人口減少社会における若者の地元定着の促進」

《COC+とは》
秋田大学は、平成27年度から文部科学省の「地(知)の拠点大学」による地方創生推進事業(COC+)に取り組みます。この事業は平成25年度から「地域のための大学」として「地(知)の拠点整備事業(COC)」を発展させた「プラス事業」であり、秋田県や企業等と協働して、学生にとって魅力のある就職先を創出・開拓するとともに、地域が求める人材養成に必要な教育カリキュラム改革を断行すること、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としています。



第1回秋田創生COC+協議会の様子

進と若者の育成をテーマに、秋田大学を事業責任大学、秋田県立大学及び秋田工業高等専門学校を参加大学として、秋田県や秋田商工会議所をはじめとした経済団体、秋田銀行、北都銀行などの協働で、次に掲げる3本の柱により、5年間で「学生の地元就職率10%UP」することを目指します。

- 第1の柱** 地域アイデンティティを持つ学生育成のための「秋田おらほ学」の展開
- 第2の柱** 地元企業群との協力による就業支援
- 第3の柱** 交流人口の増加や助け合い社会の構築に向けた「ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり」

《推進体制》
COC+及びCOC+を全学的・総合的に推進するため、平成28年4月1日に学長を本部長に、各理事及び学部長、研究科長、地方創生センター長、地域創生推進役を本部長とする「地(知)の拠点推進本部」を新たに設置しました。

5月10日に第1回本部会議を開催し、具体的に事業を実施するために全学部を横断する教員をメンバーとする「実行委員会委員長・地方創生センター長」の体制について承認するとともに、COC+で目指す「学生の地元就職率10%UP」の達成について、高いハードルではあるが全学一体となって取り組んでいくことが確認されました。

《秋田創生COC+協議会の開催》
COC+を「オール秋田」で取り組むための「秋田創生COC+協議会」が6月10日に設立され、第1回協議会を秋田大学で開催しました。はじめに秋田大学の山本文雄学長が「秋田創生COC+協議会」は、行政、経済界、大学等教育機関が一体となって事業に取り組む場。秋田県が作成した『あきた未来総合戦略』と歩調を合わせ、地域の未来を担う若者の県内定着に向けて、地域アイデンティティのある学生の育成やインタナショナルの充実、企業と学生のマッチング拡大を図っていき」と挨拶しました。

協議会には佐竹敬久秋田県知事や三浦廣巳秋田商工会議所会頭など県内企業等の代表が出席。今後の取り組みについて確認するとともに、学生が県内産業や地域課題を学ぶ「秋田おらほ学」や、大学と企業による就業支援について意見交換が行われました。

秋 田 大 学 の 分 校 事 業 紹 介



横手分校

秋田大学の学生・秋田県南地区の高校生を対象に、平成23年度から横手地区の中学校を舞台として教職体験プログラム「教育ミニミニ実習」を実施しています。

このプログラムは、将来教職に就くことを目指している大学生・高校生が、中学生と交流することで自己の適性を知り、将来の夢の実現の一步とすることを目的としています。また、実習先の中学生にとっても、教職を含め今後の進路などを意識する機会となることを期待しています。最終日の実習授業では県内教育関係者や報道機関も多数視察に訪れるなど注目されています。



男鹿なまはげ分校

秋田県男鹿市内の小中学生を対象に、平成26年度から医学部附属病院のシミュレーション教育センターにおいて、「男鹿市児童生徒の医学部訪問事業」を実施しています。

将来の職業として医師を目指す子どもや、医療関係の仕事に興味・関心がある子どもが、実際に医学部生や医師も使用する模型やシミュレーターを見学・体験することによって、夢や希望を膨らませ、より具体的な形で夢の実現に努力しようとする機会を設けることを目的とした取り組みです。参加者からは「より医療への興味が増した」「夢が具体的に変わった」などの声があります。



北秋田分校

平成26年度から秋田県北秋田市森吉地区で、協働事業主である「森のテラス」が所有する田んぼを活用し、農業と化学肥料を使わない昔ながらの農法で米づくりを行っています。平成27年度は、延べ161名の学生が作業に参加。収穫した米は秋田大学オリジナル米『ほたるひめ』(商標登録済み)として100パックを販売し、好評につき完売しました。また、棚田の復元にも挑戦しながら、現在の農業が抱える耕作放棄地の課題について学んだり、地域住民との交流を通してキャリア形成を図る事業として今後も展開していきます。

秋田大学大学院3研究科 設置記念式典を挙行



祝賀会で鏡開きを行う来賓ら

秋田大学は、昭和24年学芸学部と鉱山学部の2学部からなる新制大学として発足、昭和40年になり大学院鉱山学研究科が発足、昭和51年には医学研究科が、また平成元年には教育学研究科がそれぞれ発足し、これまで3研究



山本文雄秋田大学長

学長あいさつ

科体制でそれぞれが、地域・社会の持続的発展に必須な役割を担う存在となり、誇るに足る実績を積み重ねてまいりました。

各界が注視する中で、4学部体制を敷く大幅な組織改革を行ったのが平成26年度であり、特に国際資源学部の創設並びにそれに関連した学部改組は、優秀で国際的にも地域においても活躍できる人材の輩出を目的としたものであり、内外から大きく注目されているところでございます。

この平成28年度からは、そういった人材の輩出に加え、目まぐるしく進歩する科学技術の進展に即応し、明確なミッションの基、最先端の研究を目指すべく、国際資源学

秋田大学大学院はこれまでの3研究科から国際資源学研究科、教育学研究科、医学系研究科、理工学研究科の4研究科体制として、平成28年4月からスタートを切りました。

平成28年9月11日には、秋田ビューホテルで「秋田大学大学院3研究科設置記念式典」を挙行し、学内外関係者約140名の出席のもと、平成28年度からの大学院新体制のスタートを祝いました。

秋田大学では、平成26年度に大幅な組織改革(国際資源学部の新設等)を行っていましたが、その後の着実な歩みと新たな社会の要請により、平成28年4月における国際資源学研究科の新設並びに再編による教育学研究科における教職大学院の設置及び理工学研究科の設置による

大学院の強化につながったものです。

式典では、山本文雄学長が式辞を述べ、引き続き、富樫博之総務大臣政務官、常盤豊文部科学省高等教育局長(代読)、中島英史秋田県副知事による来賓祝辞がありました。

また、新設及び再編した各研究科の概要説明が佐藤時幸国際資源学研究科長、武田篤教育学研究科長、村岡幹夫理工学研究科長によって行われました。

当日は、式典に先立ち、文部科学省の水見谷直紀高等教育局国立大学法人支援課長により「国立大学法人等を巡る最近の動向について」と題した記念講演会が開催され、式後には盛大な祝賀会が催され、秋田大学「新時代」に向けての一層の飛躍を誓いました。



式典に先立ち行われた医学部室内合奏団による祝奏

研究科、教育学研究科、医学系研究科、理工学研究科の4研究科体制で、新たなスタートを切ることとなりました。

研究科に所属する学生は、常に国際競争を視野に入れ、同時に地域産業をも担う高度な専門的技術者・研究者たる姿勢を維持し、新たな世界に挑戦する気概を持ち、世の中に貢献できる人材となつてほしく感じる次第であります。地域企業・地方行政との連携の核になる人材を輩出することは、喫緊の課題である「地方創生」の推進にも直結しているからであります。

我が秋田大学は(1)世界・地域を見据えたリーダーを育む(2)世界・地域を視野に未来を創造する(3)地域と共生し豊かな社会を創る

(4)地域に根ざし世界を目指す、というビジョンを掲げております。この「課題」に向き合うためには、幅広い視野を持ち、高度な専門的知識を有する、高潔な人材の輩出が不可欠であります。今回の大学院新設・改組は、多くの方たちと共有する我々の「夢」の

入り口と言えます。世界に発信できる教育・研究の成果と地域医療への貢献など、これまでの輝かしい実績をより積極的に地域活性化へと結びつけ、より地域にふさわしい「地知」の拠点としての大学形成に邁進していく所存であります。

3研究科から4研究科へ

[新設 改組前]			[新設 改組後]		
教育学研究科	修士課程(44名)	学校教育専攻(13名)	再編 教育学研究科	専門職学位課程(20名)	教職実践専攻(20名)
		教科教育専攻(31名)		修士課程(6名)	心理教育実践専攻(6名)
工学資源学研究科	博士前期課程(167名)	地球資源学専攻(17名)	新設 国際資源学研究科	博士前期課程(40名)	資源地球科学専攻(17名)
		環境応用化学専攻(20名)			資源開発環境学専攻(23名)
		生命科学専攻(12名)		博士後期課程(10名)	資源学専攻(10名)
		材料工学専攻(23名)			
		情報工学専攻(16名)	再編 理工学研究科	博士前期課程(150名)	生命科学専攻(15名)
		機械工学専攻(26名)			物質科学専攻(42名)
		電気電子工学専攻(30名)			数理・電気電子情報学専攻(45名)
		土木環境工学専攻(11名)			システムデザイン工学専攻(36名)
		共同ライフサイクルデザイン工学専攻(12名)			共同ライフサイクルデザイン工学専攻(12名)
		資源学専攻(4名)			博士後期課程(10名)
		生命科学専攻(3名)			総合理工学専攻(10名)
		機能物質工学専攻(3名)			
		生産・建設工学専攻(3名)			
		電気電子情報システム工学専攻(3名)			
医学系研究科	修士課程(5名)	医科学専攻(5名)	医学系研究科	修士課程(5名)	医科学専攻(5名)
		保健学専攻(12名)		博士前期課程(12名)	保健学専攻(12名)
		保健学専攻(3名)		博士後期課程(3名)	保健学専攻(3名)
		医学専攻(30名)		博士課程(30名)	医学専攻(30名)

在学生紹介

陸上競技と学問の両立へ

医学部医学科3年次
広田 有紀さん



以来となる自己ベストを更新。大学1・2年は学業面を優先し、思うように練習ができていなかったことから記録が伸びず、陸上をやめたいと思ったこともあったという広田さん。大学3年と

医学部医学科3年次の広田有紀さんは、医学部女子陸上競技部に所属し、陸上競技と学問を両立しつつ、大学生活に励んでいます。

なった今年、学業、練習にメリハリをつけ、さらに出場する大会を絞り日本陸上に合わせ練習を行ったといいます。「記録が伸びなかった大学1・2年の時は自分がやっていたことは本当に正しいのかと思ひ悩むこともあったが、日本陸上で自己ベストを更新できたことで」と記録が伸びると分かった。さらなる自己ベスト更新を目指したい」と話しました。

攻めの走り、インカレで3位入賞

天皇賜杯第85回日本学生陸上競技対校選手権大会以下、インカレ、開催期間・平成28年9月2・4日、開催地・埼玉県熊谷市の女子800mへ出場し、2分6秒04の記録で3位入賞を果たしました。



医学部での実習、担当教員から指導を受ける

日本陸上で自己ベスト更新

第100回日本陸上競技選手権大会以下、日本陸上、開催期間・平成28年6月24・26日、開催地・愛知県名古屋市の女子800m出場し4位入賞を果たしました。

予選では2分5秒63を記録し、全体の2位で決勝進出を決め、決勝では4位入賞を果たしました。予選で高校3年生



先頭を走る広田さん

う」と、次に向けての闘志を燃やしました。表彰式では、1位、2位の選手と健闘を称え合うなど、和やかな雰囲気の中に包まれていました。

リレーエッセイ 第1回

秋田大学に期待すること

秋田大学経営協議会学外委員の皆さんから秋田大学に対するメッセージを寄せていただいております。

東京国立博物館長 銭谷 眞美



秋田に生まれ育った私は、幼い頃から秋田大学に強いあこがれと畏敬の念を持っていました。それは、秋田大学がもたらす知的な刺激と大学の先生方やそこに集う学生の皆さんの存在故でした。

私が小学校6年、昭和36年の秋に、県営手形球場（現秋田大学野球場）の裏に鉱業博物館が開館しました。モダンな円形の建物の中に、見たこともない珍しい鉱物や化石の標本が並べられ、また地下資源の状況を示す開閉式断面図をもつ立体地質図などの斬新な展示があり、当時地図模型作りに熱中していた小学生には「やはり大学はすごいなあ」と圧倒される思いがしたものでした。

進学した秋田大学教育学部附属中学校（以下、附中）の校長は教育学部教授の藤島主殿先生でした。私は藤島先生が毎週月曜日の朝、全校集会でお話をされる講話が楽しみでした。先生は穏やかな口調で、折々の季節や社会の話題も取り上げながら、私たち人間としての在り方、生き方を論じてくださいました。

今日の学長は渡辺萬次郎先生でした。私は、秋田大学が主催した中学生の社会科学発表会で初めて渡辺学長にお目にかかりました。高名な大地質学者と伺っていましたが、ニコニコと微笑みながら、「研究することには楽しいことだよ」とお話になりました。この世の人とは思えない仙人のような印象でした。

附中には、秋田大学から教育実習生がたくさん来られました。子供たちが大好きで明るい方が多く、教職につかれたこの方々の努力が今日の秋田県の高い教育評価につながったのだと思います。

当時の学長は渡辺萬次郎先生でした。私は、秋田大学が主催した中学生の社会科学発表会で初めて渡辺学長にお目にかかりました。高名な大地質学者と伺っていましたが、ニコニコと微笑みながら、「研究することには楽しいことだよ」とお話になりました。この世の人とは思えない仙人のような印象でした。

附中には、秋田大学から教育実習生がたくさん来られました。子供たちが大好きで明るい方が多く、教職につかれたこの方々の努力が今日の秋田県の高い教育評価につながったのだと思います。

進学した秋田大学教育学部附属中学校（以下、附中）の校長は教育学部教授の藤島主殿先生でした。私は藤島先生が毎週月曜日の朝、全校集会でお話をされる講話が楽しみでした。先生は穏やかな口調で、折々の季節や社会の話題も取り上げながら、私たち人間としての在り方、生き方を論じてくださいました。

今日の学長は渡辺萬次郎先生でした。私は、秋田大学が主催した中学生の社会科学発表会で初めて渡辺学長にお目にかかりました。高名な大地質学者と伺っていましたが、ニコニコと微笑みながら、「研究することには楽しいことだよ」とお話になりました。この世の人とは思えない仙人のような印象でした。

附中には、秋田大学から教育実習生がたくさん来られました。子供たちが大好きで明るい方が多く、教職につかれたこの方々の努力が今日の秋田県の高い教育評価につながったのだと思います。

が問い直されています。逆に言えば、日本の将来を切り開くために大学の持つ知の拠点としてのポテンシャルへの期待が高まっているとも言えます。

秋田大学も例外ではありません。秋田県は人口減少・高齢化率は全国トップと言われています。つまり、秋田県の実況に日本の将来を見ることができそうです。秋田大学はこうした秋田県や日本の将来を見据えて、国際資源、教育文化、医学、理工の各分野において、これまでの伝統を生かしつつ、未来を創造する教育研究を進められることを私は強く希望します。例えば、地域産業創成への支援、高齢者の健康寿命を伸ばす医療や看護、街づくりの研究、グローバル・ICT社会を生き抜く汎用的能力、倫理観の育成を図る教育の全学的な展開などを期待したいと思っています。

私は、秋田大学が、私が幼い頃感じたような知的で豊かな情操に満ちた学園として今後とも発展していくことを期待しています。

状況は厳しいものがあります。日本の国際的な存在価値の低下、産業構造、就業構造の急激な変化、少子高齢化の進行する中で大学の研究力、教育力、地域（社会）貢献力

秋田大学生協は大学生を応援します

秋田大学生の学生生活を日常的にサポートするのが大学生協です！

大学生協組合員還元企画

生協まつりを開催します！

10/24(月)～10/28(金)

※詳細は10月中旬配布予定のチラシをご覧ください。

【生協まつり開催店舗】

手形食堂・本道食堂・コーブル・パンコ・メディコ

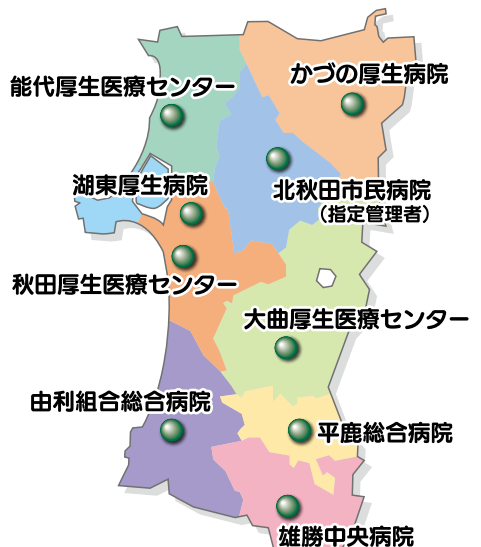
各店舗の営業時間はここからチェック！

→秋田大学生協HP



お問い合わせ ☎0120-327-141

秋田県厚生農業協同組合連合会



JA秋田厚生連 検索

丁酉会は、秋田大学病院の患者、職員及び学生への便宜供与に関する事業を行うとともに、医学研究の奨励助成を行い、患者等の利便と医学振興に寄与します。

病院での生活を、もっと便利に、快適に
一般財団法人 丁酉会

保険調剤

てい ゆう かい

丁酉会薬局

秋田大学病院前



秋田大学に来て

秋田大学はこの春、民間企業出身の理事と監事を迎えました。資生堂出身の関根近子理事と、日産自動車出身の真鍋雅文監事です。共にビジネスの最前線で、世界をフィールドに実績を積み上げてきた方々です。全国の国立大学法人でも「異例」のことらしく、注目を集めています。大学の培ってきた良さを守り、伸ばすためには様々な視点が不可欠です。期待を込め、時には「厳しい」声も。秋田大学に思いを込め、座談会を開きました。司会：高橋康弘副理事（元朝日新聞記者）



「高橋 三人とも秋田県出身ではありません。縁あってこの地(秋田)に関わるようになったら、秋田はいかがですか？」

真鍋 自然豊かで、非常に風光明媚な土地だと思います。時の流れがゆったりしていて人も昔ながらの日本の美点である和の精神が根強く残っているように感じます。ただ、裏を返せば競争社会で生き延びていくためにはそれが弱点にもなっている可能性も否定できません。

関根 山形県出身の私にとって隣の「秋田」は東北の中で「ファッション」に敏感で、いち早く新しいものを取り入れるチャレンジ精神旺盛な県という認識でした。しかしながら、ここ近年秋田に関わるようになって感じるのは、個々の人は努力家で向上心があるものの、一歩前に出て新しい道を切り拓く人を応援する風土が弱いと感じることがあります。これは、秋田だけではありませんが、秋田には素晴らしい資源が溢れているだけに残念に感じることが多々あります。

「高橋 秋田大学の印象はどうでしょう。」
関根 第一印象という範囲で

の感想です。学食のランチも何度か経験しましたが、若者のエネルギーが集まっているような空間でした。学生たちは恵まれた環境の中で伸び伸びと個性を発揮しながら学業に取り組んでいるという印象を持っています。

真鍋 学生が驚くほど大学に通っていますよね。そして学食やベンチで本を広げたりして学んでいる。ある意味で新鮮です。個別に話をする機会もありますが、公務員志望が多いことには驚きました。同時に起業したいという学生も少なくない。可能性を秘めた学生たちの希望を叶えていくことが大人の役割だと感じるがあります。

「高橋 会議に出席する機会が多いと思います。私自身は秋田大学7年(目)生になりましたが、会議では静かな出席者が多いという思いを未だ消せないのですが。新人でも意見を求めるという、新聞社の会議が激しうございました。」

真鍋 いくつかの会議に出ています。出席人数が多いことと、紙ベースの資料が中心であることに驚かされました。プレゼンテーションを受ける機会もありますが「前置きに神経を使わずに、非常に長い時間を要します。その結果なのでしょうが、プレゼンテーションを聞いている内に、どのような要因がどう作用してこの結論に至ったのか解りづらいものになっていることも間々あります。」

関根 大学では会議に出席することも大きな役割になっていますが、この場での議論が少ないという印象を持って

います。最終審議までに複数のレイヤーで議論をした結果だとは思いますが、その過程が見えないからでしょうか。様々な立場で参加されている方々が、それぞれの立ち位置から全体を考えた意見を述べ合うと、より成熟したものになると思います。

「高橋 地域に貢献することとが今、秋田大学の大きなミッションとなっています。その秋田は、少子高齢化の「先進地」ともいえます。高齢化を視点に、大学の「存在をどう考えられますか？」

真鍋 地域医療、防災、産業支援等の構造を高齢者にやさしい方向に導く提言をするとは可能でしょうが、決定権者、実行者は大学ではありません。若者が元気でなければ地域が元気にならないと思います。ですから、大学の役割として、学生が将来に明るい展望を持てるように支援することであり、それが結果的には地域の活性化、高齢者支援につながるのではないかと思います。

関根 高齢化と若者は無縁ではないと捉えます。これからの若者(学生)が高齢化社会に起こりうるリスクや課題に対してどのような地域構造を創出していくか、などなど。高齢化先進地域の秋田という地の大学だからこそ、身近な問題として取り上げることが必要だと考えます。地域と共に発展し共に歩むという存立の理念を掲げる秋田大学の存在意義がそこにあると思います。

「高橋 民間企業での経験が長いお二人ですが、企業が求めている人材は？何を意識して学生生活を過ごすことを「企業人」として求め

ますか？」

真鍋 物事を様々な角度からみて、問題点を整理できる人を歓迎しています。問題整理ができていないと絶対に改善点は見つけられません。もちろん問題解決力を持つてくれればそれに越したことはないですが、問題発掘の力さえ持っていれば周りにいる上司、同僚と一緒に経験を積みむことで自然と改善力や解決力がついてきます。会社に入ったら学生時代に身に付けた専門知識をそのまま生かせる職種につけるかどうかは分かりません。専門知識を身に付ける過程での「なぜ？」を大切にしてほしいです。

「高橋 秋田大学は地域を見つめると同時に、グローバル化への対応が求められています。お二人の海外経験を通じて、グローバル化とはどういうこととお考えですか？」

真鍋 真鍋さんが全て述べてくださいました。学生という特権を最大限に生かし、学業のみならず全てのことにチャレンジしてほしいと思います。企業はチャレンジする人を求めています。そのためには常に「好奇心」「問題意識」「主体性」「率先力」を意識して行動することが大事。そして「自分の強み得意分野」を認識し、磨き上げていく努力を勧めます。

理事(企画担当)〈非常勤〉 関根 近子			
略歴	昭和47年3月	資生堂山形販売株式会社	入社
	平成3年4月	株式会社ディシラ東日本営業本部	出向
	平成13年4月	同	営業部長
	平成15年4月	同	営業本部長
	平成16年10月	資生堂販売株式会社宇都宮支社	支社長
	平成18年4月	同	近畿支社大阪支店 支店長
	平成20年4月	株式会社ディシラ本部出向	全国営業本部長
	平成21年10月	株式会社資生堂国際マーケティング部	美容企画推進室長
	平成24年4月	同	執行役員就任
	平成26年4月	同	執行役員常務就任
	平成27年12月	同	執行役員常務退任
	平成28年1月	同	顧問就任
	平成28年4月	秋田大学理事(企画担当)〈非常勤〉	

監事 真鍋 雅文			
略歴	昭和56年4月	日産自動車株式会社	入社
	平成8年4月	同	商品企画室主任
	平成12年4月	同	クロスカーライン 商品企画部主任
	平成14年4月	欧州日産(フランス)	クロスカーライン 商品企画部部長
	平成18年4月	日産自動車株式会社	マーケティング本部商品企画部部長
	平成19年4月	同	日本商品企画室室長
	平成22年4月	東風汽车有限公司(中国)	副総裁 兼 鄭州日産副董事長
	平成28年3月	同	退社
	平成28年4月	秋田大学監事	
	平成28年4月		

—高橋 教職員の意識はどのくらいあるべきでしょうか。

真鍋 グローバル化の対応という意味でいけば①自分の強みを磨く②自国の歴史や強み、課題の把握。世界情勢などに日頃から関心を持つ③論理的思考、プレゼンテーション力をつける④アサーティブコミュニケーション力をつける。学生時代にはこれらの要因を育む機会がたくさんあるのです。そのチャンスを大切にしてほしいと思います。

真鍋 日本は世界でも稀な性善説を前提にする国です。で、他人を尊重することや他人を理解しようとすることは皆さん自然に身に付いているはず。大半のビジネス環境では、「性悪説(言い過ぎですかね?)で相手を疑ってかかる」ところから始まります。残念ながら、言わなくても分かる、空気を讀んでくれというのは、まず通用しません。

—高橋 ビジネスの現場で「異文化」を感じましたか?グローバル化の時代に学生は何をすべきでしょうか?

真鍋 多様な価値観や文化、メンタリティーを認めることがグローバル化対応の必須要件と考えています。

真鍋 違う文化的背景、違う教育環境で育った異なる価値観を持った人たちが、同じ会社なら同じ会社の利益に向けて共同で働く、また全然違う価値観を持つマーケットで様々な国の競合相手と市場競争を繰り広げる。即ち、時として日本の常識の枠外での協力や競争に参画していくということですね。

—高橋 秋田大学の可能性について、語るべきことを「外部の視点」からうかがえますか?

真鍋 大学の規模が適切で、大規模大学に比べて学生と教職員の距離を近く保てます。学長が常に「学生第二」とおっしゃっていますが、本当に具現化できる土壌を持って

現在、事務系の女性管理職の割合が3.8%ですね。これから先、女性が管理職としてマネージメントする場がますます増えていくでしょう。先日、女性職員のキャリアアップ研修の講師をする機会があり、自分たちの力を発揮したい、という方々に多く、出会えた。一方、現状では何をしたら良いのか分からない、と感じていることも伝わってきました。皆さんには、研修の時間をきっかけとして立ち止まり、自分の足元を見つめ直して、これまでに統括し、これからのキャリアプランとライフプランを構築していったほしいと強く感じました。

真鍋 学生が、秋田大学での学習活動を通じて身に付いた知識、スキル、マインドを総合的に活用できる実務実践力を養うためにも教職員一人ひとりの意識変革が求められていますと考えています。授業スタイル含め教職員の発言、行動が学生に与える影響は大きい。「自分のスタイルはコレだ」と決めつけず、常に「学生第二」の基本姿勢のもと教育内容・パフォーマンスのチャレンジをお願いします。

真鍋 学生が、秋田大学での学習活動を通じて身に付いた知識、スキル、マインドを総合的に活用できる実務実践力を養うためにも教職員一人ひとりの意識変革が求められていますと考えています。授業スタイル含め教職員の発言、行動が学生に与える影響は大きい。「自分のスタイルはコレだ」と決めつけず、常に「学生第二」の基本姿勢のもと教育内容・パフォーマンスのチャレンジをお願いします。

真鍋 すでに様々な取り組みを進めているのは承知していますが、できるだけ違う価値観の人や集団に学生が直接触れられる機会を増やしてもらえればと思います。

吉岡監事にお話をうかがいました。

縁あって監事に就任してから、ある意味で全てが「新鮮」です。大学では、五十人収容できる教室なのに、三十人の学生に講義する。仮に学生が十人であっても、必要なことを行う。人件費、効率だけでは割り切れないことを、愚直に行う。企業会計的にはあり得ない「継続」なのですが、これが大学の良さ、大切な一面であることを再認識しました。



これまで関わってきた民間企業では、給料

がなぜ払われているのかは明確です。商品が売れなければ、サービスに対して評価を受けなければ、その原資は捻出できません。自己評価と顧客の評価に大きな乖離があれば、その企業は倒産への道をたどります。

秋田大学はさらなる躍進への可能性を抱いている。しかし「猶予期間」は、皆が考えて安心しているだけの余裕はないのではないかと感じています。

吉岡 順子		
監事<非常勤>		
略歴	平成 1年10月	中央新光監査法人(みずぎ監査法人) 入所
	平成 5年 3月	公認会計士登録・公認会計士吉岡順子事務所開設
	平成 19年 7月	みずぎ監査法人退所
	平成 20年 8月	税理士登録・吉岡順子税理士事務所開設
	平成 25年 6月	日本公認会計士協会東北会常任幹事
	平成 28年 2月	日本公認会計士協会東北会秋田県会会長 秋田大学監事<非常勤>

真鍋 地創生を通じて、地域と共に発展し地域と共に歩むという存立の理念に基づいて築いてきた秋田大学の有形・無形の資産に今後の大きな可能性を感じます。地域医療を含め、地方活性化を具現化する先進国立大学を目

指していただきたい。先頭を走っていく大学になると信じています。

真鍋 自分の経験からしても大学時代は人生で最も多く様で初めて大海の入り口に来たという感じで非常にわくわくした時期でした。皆さんも勉学に励むことはもちろんですが、ぜひ色々な方とふれあい、見聞を広めてほしいと思います。我々の時代と違い、学生の時代は多岐にわたる。今までの視点、価値観に出会えるまたとない機会を最大限生かしてください。

—高橋 学生たちへ一言メッセージをお願いします。

真鍋 皆さんの、様々な目的をもって秋田大学に入学されたことと思います。大学は義務教育ではないからこそ、それぞれの「学ぶ姿勢」により大きな差が出てきます。すべては「自分次第」ということです。日々の学習の中で時には「この科目や授業は社会に出て役に立つのだろうか?」と思うこともあるでしょうが、仕事において、「あの時教わったのはこういうことだったのか?」と思うことが多々あります。大学の学びの中で「無駄」なことは一つもありません。ぜひ、大学という環境の中で悔いのない大学生活を過ごしてください。

真鍋 皆さんの、様々な目的をもって秋田大学に入学されたことと思います。大学は義務教育ではないからこそ、それぞれの「学ぶ姿勢」により大きな差が出てきます。すべては「自分次第」ということです。日々の学習の中で時には「この科目や授業は社会に出て役に立つのだろうか?」と思うこともあるでしょうが、仕事において、「あの時教わったのはこういうことだったのか?」と思うことが多々あります。大学の学びの中で「無駄」なことは一つもありません。ぜひ、大学という環境の中で悔いのない大学生活を過ごしてください。



共に創る。共に生きる。

大和ハウスグループは、グループシンボル「エンドレスハート」にお客様と私たちの永遠の絆と私たちグループの連帯感を託しました。人・街・暮らしの価値共創グループとして、私たちは社会に新しい価値を築いてまいります。

大和リース株式会社 秋田支店
秋田市御所野元町 1-1-1 〒010-1414
Tel : 018-892-7152 Fax : 018-892-7153
www.daiwalease.co.jp

あなたの笑顔が私の元気

- 特別養護老人ホーム
「萬生苑」「楽しいわが家」「ふるさと矢島」「ふるさと学び舎」「花ごよみ」
- ケアハウス 「楽しいわが家」
- 特定ケアハウス
「ふるさと学び舎」「スマートライフ中通」

各施設には、ショートステイが併設されております

- 単独型ショートステイ 「いきいきASOKO」
- デイサービスセンター
「My!!ともだち」「ふるさと学び舎」「楽しいわが家」「てまり」
- グループホーム
「安心サポート本荘」「安心サポート矢島」「安心サポート仁賀保」
- 中央保育園 ■白百合こども園

社会福祉法人 中央会

TEL 0184-24-3711 E-mail chuoukai@chokai.ne.jp
FAX 0184-22-3780 URL http://www.chuoukai.com



15席の落ち着いた空間 新聞を手にとったのコーヒーを

- ・ホットコーヒー200円(税込)
- ・世界遺産のアイスコーヒー250円(税込)
- ・カプチーノ300円(税込)
- ・オーガニックアールグレイ(ホット・アイス)200円(税込)

プレイガイド 書籍・新聞販売 データベースで記事検索 カフェスペース
さがけ NewsCafe
秋田市中通1丁目4-3 エリアなかいち1F お問い合わせ先 TEL.018-874-8171
〈営業時間〉10:00~19:00 ●カウンター 9席 ●テーブル 6席

NEWS&TOPICS

ニュース&トピックス

2016.07. >>>2016.08.

JULY

北東北3大学と3銀行が提携協定を締結 地域版「TLO」ネットビックスプラス 共同記者会見を実施

秋田大学、岩手大学、弘前大学、秋田銀行、岩手銀行、青森銀行の6者は、地方創生の取り組みとして大学の持つ新技術を地域の中小企業と連携して活用するための新しい取り組みである「ネットビックスプラス」を立ち上げ、提携協定を締結することとし、7月14日に共同記者会見を実施しました。

地域版「TLO」ネットビックスプラスとは、秋田大学、岩手大学、弘前大学の北東北3大学が持つ「研究技術」や産業化の可能性がある「ビジネスの種」を、秋田銀行、岩手銀行、青森銀行の北東北3銀行のネットワークで地域企業に情報提供することによって、新産業の創出や地域の活性化を目指した全く新しい取り組みです。

【TLO: Technology Licensing Organization (技術移転機関)】大学の研究者の研究成果を特許化し、それを企業へ技術移転する法人であり、産と学の「仲介役」の役割を果たす組織(経済産業省ホームページより)。



記念撮影の様子

AUGUST

秋田大学竿燈会、第70回竿燈妙技大会の大若囃子方部門で優勝

秋田大学竿燈会は、8月4(6日)にかけて行われた第70回竿燈妙技大会に出場し、大若囃子方部門で優勝を果たしました。

この大会は、秋田の伝統的行事であり、夜間に実施する秋田竿燈まつり開催期間の1日に行われ、祭りに参加する各町内や企業・団体などのチームが決められたルールのもと竿燈妙技を披露して、その技術を競うものです。「大若・小若団体規定」「大若団体自由」「大若個人戦」「大若・小若囃子方」の各部門があり、竿燈まつりに精通した大会

審査員らの目によって厳しく審査されます。その中で同大会竿燈会は笛・上太鼓・下太鼓の3人1組が「流し囃子」と「本囃子」を演奏してリズムや音色などを競う「大若囃子方」部門において、威勢のよいパチパチと伸びのある笛の音色で息のあった演奏を披露し、同部門参加54チームの頂点に立ちました。

竿燈会は、同大会に昭和46年から出場し、今年で連続46回目の出場。竿燈会が優勝を飾ったのは昭和54年の大若個人戦や平成9年の大若囃子方、平成20年の大若団体自由

部門以来、決勝のお囃子で下太鼓を担当した就職推進課の加藤賢志主査は「昨年の大会で決勝に進みながら不本意な演技で5位に終わった悔しさをバネに、必死に練習に取り組んできた。本番に向けて緊張はあったが、これまでの練習の成果を十二分に発揮して演奏でき、優勝という結果につながったことは大変嬉しく思う。ともに祭りに参加した竿燈会の方々や、活動を支えていただいた教職員の方々に感謝したい」と達成感に満ちた表情で話しました。

同イベントは、附属学校園の取り組みに関心のある方々や、入園・入学等を考えている保護者等を対象に今年度初めて行われたもので、当日は子どもや家族等270名余の参加があり、盛況な企画となりました。

教育文化学部附属小学校の6年生、伊藤心(しん)さんが7月20日に林信太郎校長を訪れ、口笛世界大会2016の音楽伴奏部門ジュニアの部優勝及び、アライドアーツ部門準優勝を報告しました。



世界大会の様子

口笛世界大会2016は、口笛の魅力や楽しみ方を知ってもらおうとプロ奏者や愛好家らで組織されたジャパン・ウイスリング・コンフェデレーションが主催して、7月15(17日)の3日間、神奈川県川崎市高津区で開催されたもので、今回が初開催。口笛の技術向上について話し合うシンポジウムや技術力を競うコン

テストが行われ、6カ国から約50組の個人・団体が参加した。コンテストではカラオケ伴奏による「音楽伴奏」部門のほか、寸劇を交えるなど自由なアレンジができる「アライドアーツ部門」を演奏し、「アライドアーツ」部門でも学校で習った曲をベースに歌と口笛を織り交ぜた演技を披露し、準優勝を飾りました。伊藤さんは「こういったコンテストに参加するのは初めてで、とても緊張した。参加者のレベルが高く、結果が出せるか不安だったが、優勝できてうれしい」と話し、「これからも口笛のコンテストがあれば積極的に参加したい。また、口笛以外でも色々なコンテストで活躍したい」と意欲を見せていました。

当日は「音楽伴奏」のジュニア部門で「見上げてごらん夜の星を」などを吹いて優勝し、「アライドアーツ」部門でも学校で習った曲をベースに歌と口笛を織り交ぜた演技を披露し、準優勝を飾りました。伊藤さんは「こういったコンテストに参加するのは初めてで、とても緊張した。参加者のレベルが高く、結果が出せるか不安だったが、優勝できてうれしい」と話し、「これからも口笛のコンテストがあれば積極的に参加したい。また、口笛以外でも色々なコンテストで活躍したい」と意欲を見せていました。

林信太郎校長からトロフィーを受け取る伊藤さん



出前授業「キッチン火山博士の噴火実験教室」で実験を行う参加者

教育文化学部附属小学校の伊藤心さんが「口笛世界大会2016 ジュニアの部」で優勝

教育文化学部附属学校園オープンフェスタ2016を開催

教育文化学部附属学校園(幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校)は8月7日、各学校園のユニークな取り組みを出前授業や参加型ミニ授業、映像等で紹介する「オープンフェスタ2016」を秋田市のにぎわい交流館AUで開催しました。

イベントのオープニングでは、各学校園の取り組みがスライドショーで紹介された後、小学校及び中学校合唱部による歌声が会場を温かく包みました。また、武田篤教育文化学部長が挨拶で「附属学校園が大切にしている教育理念は子ども一人ひとりの知的な好奇心を大切にすること」と述べると、引き続き、林信太郎附属学校園代表(小学校長)が「四校園が一つのキャンパスにあることで教育面等における交流が深まっている」「アクティブラーニングを積極的に取り入れている」などの特徴を紹介しました。

教育文化学部教授による出前授業のほか、特別支援学校高等部の生徒による「HATOCカフェ」、また、小・中学校の教員及び中学校の情報科学部員による「目指せ金メダル! パターンブロックオリンピック」や「あなたも今日から気象予報士!」などの7つの参加型ミニ授業等には、好奇心溢れた子どもたちが多数参加し、会場をにぎわしました。

同イベントは、附属学校園の取り組みに関心のある方々や、入園・入学等を考えている保護者等を対象に今年度初めて行われたもので、当日は子どもや家族等270名余の参加があり、盛況な企画となりました。



決勝での演技の様子



附属小学校の児童たちが合唱を披露



会場は多くの参加者でにぎわった



出前授業「キッチン火山博士の噴火実験教室」で実験を行う参加者

同志の祝福とともに、新たな轍を

よさとせ歌舞輝 10周年イベント

秋田大学よさこいサークル「よさとせ歌舞輝（かぶき）」が結成10周年を記念し、7月18日にイベントを開催しました。会場となったエリアなかいち・にぎわい広場には約2000人の観客が訪れ、大盛況となりました。

「これまでを懐かしむ」

2006年に結成した当時のメンバーは5人ほど。地域で開催されるよさこいイベントで、「フリーダンス」と呼ばれる出演者・観客が総参加の踊りに加わることが始まりだったそうです。現在のようにオリジナル曲を披露し始めたのは翌年から。会場に隣接する施設には、歴代のオリジナル曲の演奏や衣装を展示するスペースが設けられ、当

時を懐かしむOB・OGの姿も見られました。

「サークルの歩みを演舞で」

節目となる今年のテーマは「轍」。今までサークルが歩んできた歴史とこれからの展望を表現した演舞となっていました。踊ることの楽しさ、経験を重ねることに生まれる葛藤、そしてその先に見つけた自分らしさ。曲調や振り付けの変化から、メンバーの思いが伝わってきます。代表の伊藤真弥さん（教育文化学部3年次）曰く「振り付けは単純ですが、だからこそ表現力が重要」だそう。直前の練習では一人ひとりの顔や手の向きを揃えるなど、細かな部分まで確認を重ねていました。

「他チームからの祝福」

会場には、数々のイベントで交流してきた県内外の他チームも駆け付けました。旗のポールが壊れてしまった際には、自分の団体の物を貸してくれるチーム。出番の時には「歌舞輝」コール。先代はもちろんのこと、多くの他チームとの関わりや支えがあったと言います。この日も嬉しいサプライズが続出。演舞中に昨年度のオリジナル曲を歌唱するなど、10周年を祝福するチームが幾つも見られました。イベント終盤、よさとせ歌舞輝の演舞の際には、全チームの旗が会場を取り囲みました。これらのおかげで、伊藤さんは「『おめでとう』の気持ち



イベントの最後に行われた総踊り。出演者と観客が一緒になって、踊りを楽しんだ



平成28年のオリジナル曲「輝跡」。衣装は、雪深い秋田の冬（白）と田沢湖の水（青）をイメージした。



後半の衣装チェンジ後の様子。黄色い衣装は、秋田の稲穂をイメージ。

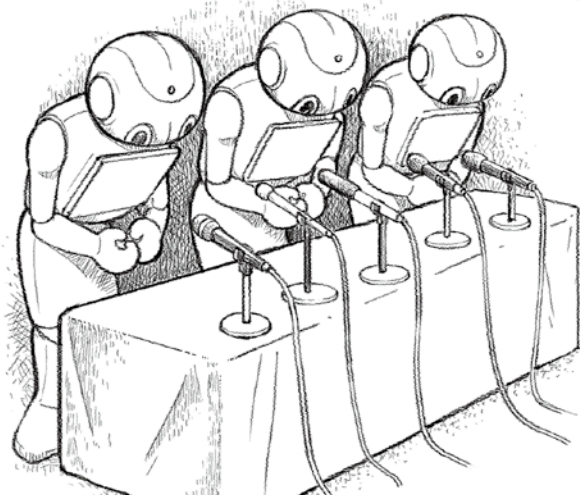


歴代オリジナル曲の衣装

を演舞で表現してくれたのが嬉しかった」と振り返りました。

AUP記者 石田圭織

Column 文章力up



記者会見の場に現れたのはロボット。深々と頭を下げ、謝罪の言葉。ふと見ると、記者席にもロボットが並び、リアルタイムでその模様を送信している。意外と厳しい質問も飛び、「反省しているのか」などと言声が強められたりする。謝罪側は消耗し、最終手前はフリーズ。都合の良い発表の時だけは「人間」が壇上に登る近未来の「記者会見」。こんなことが、あながち突飛でもないのかもしれない。

オックスフォード大学（英国）のオズボーン准教授と野村総合研究所の共同研究（2015年12月）では50%近い職業が近い将来、機械や人口知能によって代替えが可能である、というものだ。あくまでも技術的な代替えの話

だが、仕事をするこの環境は変化し続けるのだろう。

「公務員」を希望する学生さんと予想以上に会ったため、文頭の妄想に入ってしまった。地方自治体、国、国際。公務員の舞台も分野も幅広く、奥も深い。何となく安定という「神話」だけを真に受けすぎている気がしてしまっている。

面接や小論文で、公務員を志す理由をどう説明するのだろうか。「地元が好きだから」とか「故郷のために働きたい」↓いわゆる模範解答。「転勤したくない」↓本音すぎ。

「安定しているから」↓先は分からない。軸足をどこに置くかも問われる。地方公務員ならばその自治体。国家公

務員は日本が主語。国際公務員は世界を視野に動く。いずれも自己完結（自給自足？）できる場ではないので、立ち位置に縛られない理論構築も不可欠だ。

国家公務員を受験した学生に面接の模様を聞く機会があった。ペーパー試験で残ったのは立派だが、面接での付け焼き刃は通用しなかったようだ。予想以上に官庁側の質問はシビアで、理論（政策）に裏付けされた熱くてクールな答えを求められていた。何度もこの欄で書いていることかもしれないが、どう感じるのか、何を考えたのか。この訓練（習慣）を日々、意識するしかないのではないだろうか。

ご飯を食べる↓おいしい。見慣れた風景に立ち止まる↓美しい。音楽を聴く↓やっぱ、いいね。

旅に出て、故郷を思う↓再発見。さりげない「日常」が、付け焼き刃でない感性を育てるはずだ。

公務員を志すなら、「公」務「員」という言葉の意味を噛みしめて考えないと、本気でまづい時代に入ってきている。民間企業でも、自分が入社することによる「利益」を伝えたい。代替えが効かない魅力伝えたい。今回は（も）だいたい偉そうなことを書いてしまった。お前は何様のつもりだ？

「みなし公務員」です。秋田大学副理事国際担当（元朝日新聞記者）高橋 康弘

先輩なう。

秋田大学卒業生の
今(=なう)をご紹介します。



PROFILE

木幡 隆宏さん

国立大学法人秋田大学
大学教員

◆大学院教育学研究科
教科教育専攻
2006年3月修了

今の仕事内容、やりがいを教えてください。

教養科目の英語の授業を担当し、また英語教育分野の研究(特にライティング指導、評価、テスト分野)を行っています。現在の日本の大学生に求められていることを踏まえながら、研究で得た知識を授業で活かし、また授業での学生の様子を研究に生かして英語教育界に貢献することで、社会と研究と現場を繋ぐことができる点にやりがいを感じています。

今の仕事を目指したきっかけを教えてください。

元々は高校教員を目指していたのですが、大学院で研究を進めていくうちに研究への関心が高くなり大学教員を目指すようになりました。今振り返ってみると、指導教官の研究に対する指導方法や指導姿勢が大きく影響を与えてくれたのではないかと感じます。

大学院へ進学された理由を教えてください。



学部のある英語教育関連の授業にて、英語教員が直面する多種多様の「こんな時どうしたらいい?」「これって本当にいいの?」について議論したことがきっかけとなりました。自分が中学校、高校で受けた授業では当たり前だと思って受け入れていたことが、実は間違っていた、または他

の方法がたくさんあることに気付いたことが衝撃的で、また自分の未熟さを痛感しました。その授業の議論を通して批判的思考能力の基礎を身に着けることができましたが、英語教育研究を通して自ら課題を見つけ解決する力をさらに身に着けるため、私の研究内容を専門としている先生が当時在籍していた秋田大学大学院へ進学することに決めました。

秋田大学での学びが、現在どのように生かされていますか。

常に広い視野を持って研究するという事に生かされています。授業や研究指導では、理論や研究結果を日本の英語教育環境においてどのように応用可能であるか、どのような利点・欠点があるかの議論を尽くしたことで、目の前の研究結果だけにとらわれないようにするスキルが身に着き、現在の研究と授業の助けになっています。また、当時の英語教育専修の大学院生室は学部生との共同研究室となっており、共に英語教育について議論し、教師を目指す熱い力に刺激を受けたことが私自身の成長にもつながりました。

後輩にメッセージをお願いします。

学生生活中に、友達だけでなく多くの仲間を見つけてください。一緒にお祭りや花火に出かけて楽しい時間を過ごす友達も大切ですが、同じ目的・目標を持って互いに切磋琢磨し、また協力し合うことのできる仲間も貴重な存在です。学内の同じ専攻の仲間だけでなく、特に学外の仲間は異なる刺激を与えてくれるはず。英語教師を目指している学生にとっては私も仲間であり、英語がもっとできるようになりたいと努力している人もまた私の仲間です。研究室のドアはいつでもみなさんに開かれています(物理的には閉まっていますが)。いつでも立ち寄ってください。



PROFILE

尾山 龍之介さん

株式会社ピーエス三菱
東京土木支店土木工事部
土木工事グループ

◆大学院工学資源学研究科
土木環境工学専攻
2015年3月修了



今の仕事内容、やりがいを教えてください。



現在は、橋梁の現場で仕事をしています。工場で制作されたプレストレスト・コンクリート(以下、PC)ホロー桁という橋桁を現場で架設をしています。その中で私が実際に行っている作業は、測量や現場の状況写真を撮ることです。

毎日仕事をする中で、自分が測量して現場の作業員らと協力しながら徐々に構造物が出来上がっていくことにやりがいを感じています。まだまだ学ぶことがたくさんありますが、少しずつ自分のできる仕事が増えていくことを通して、自分の成長を実感できると同時に、形になって表れるのがこの仕事の魅力だと思います。

今の仕事を目指したきっかけを教えてください。

大学院生の頃に、教授の講義の手伝いをする機会があり、その中でPCの構造計算を学び、PCについて興味を持ちました。また、大学での見学会でも、実際に橋を架けているPCの現場に行くことができ、ますます興味を持ちました。日本で初めてPC技術を利用して橋を架けたのが当社だったことが、入社しようと思った動機です。

大学院へ進学された理由を教えてください。

研究や講義を通して、もっと専門的な知識を学びたかったのが一番の動機です。また、研究ではプレストレス力と木橋が調和した研究をやっており、こういった研究にも興味を持ち、大学院でもっと学びたいと思いました。

秋田大学での学びが、現在どのように生かされていますか。

大学院ではプレストレス力を有した木橋の研究に携わって、有限要素解析を行い、実際に手計算で剛性評価を行ってきました。教授の講義の手伝いでは、PCの応力計算やたわみ計算を学び、ますますPCについて興味が沸きました。また学部3年次では、測量実習という講義で学んだ測量器具の使い方や実際に測量をして高低差などを計算してきました。測量や構造計算はいま関わっている仕事でよくやることなので、学生時代に学んだことは大いに役立っています。



後輩にメッセージをお願いします。

たくさんの人と話をしたり、話を聞いたりして情報収集することが大事だと思います。どうしても知っている名前の企業に目が留まりがちですが、



様々な業種を見ることで視野が広がると思います。また、多くの講義を受講していく中で自分のやりたいことが見えてくるかもしれません。最終的に“これ”と決めたら周りに流されることなく自分の想いを信じて頑張ってもらいたいです。

学生取材班

AUP秋田大学報道局

秋田大学や秋田に関わる情報を学内外に発信する、大学公認の学生新聞サークル。新聞「The Akita University Post」を年3回発行。現在11名で活動中。

秋田大学祭実行委員会

- 所属人数:39人
- 活動日時:(ミーティング)土日いずれか
- 活動場所:小体育館横サークル棟

活動内容とチームの特徴

秋に開催する秋田大学祭の企画・運営を行っています。春先は1年生向けの説明会や歓迎会を行い、5月頃から大学祭開催に向け本格的に動き始めます。夏休み前までは大学祭参加団体を募り、実行委員会企画を含めた案件について話し合います。実行委員会企画とは実行委員が発案の企画で、今までリアル脱出ゲームや裏ミスコ、ラジオなど多彩な企画を行ってきました。夏休みに入ってから具体的な構想を考えつつ、当日に向け万全の体制を作り上げます。当日は来場者に楽しんでもらえるように全員総出で動きます。忙しいですが、今までの成果が出る日でもあるので、辛くはありません。

基本的には2年生主体で動きますが、部員全員に役割があります。特に1年生は来年度の主役を担うことになるので、2年生の補佐をしながら大学祭運営について学びます。役割は外部交渉(委員長等)や協賛回り(全部員)など多岐に渡ります。個性的なメンバーが多く、仲も良



秋田大学祭実行委員会の皆さん

いです。部室でも作業をしながら雑談やゲームなどで盛り上がっていて、雰囲気非常に良いサークルです。ミーティングなどの際はメリハリをつけて真面目に取り組めます。遊ぶ時と真面目な時の境界がはっきりしていて、その部分がこのサークルの長所だと思っています。

新入生(受験生)へのメッセージ

秋田大学祭実行委員会は学年や学部を超えて部員の仲が良く、皆で楽しく作業し合えるサークルです。様々な役割があって、やりがいもあります。これからの秋田大学祭と一緒に作り上げたいと言う方は、ぜひ来てください!

記者:渡部 花



「大学祭50周年に向けての取り組み」

50周年を迎えるに当たって、私たちは外部との繋がりを重要視しています。具体的には、今まで独立していた企画を秋大祭に取り入れて、大々的に行う予定です。その一例として、昨年も行っていた理工学部の学生プログラムを取り入れた「ものづくりコーナー」を開設します。また、大学祭とは別の日に行っていた地域交流朝市を取り入れ、地域の特産品等の販売や伝統芸能のステージを行います。



囲碁部

- 所属人数:15人
- 活動日時:月・木曜16:10~18:30
- 活動場所:教育5号館裏サークル棟2階

次世代に繋ぐ

2016年の春、秋田市在住の三浦祐子さんより囲碁部に碁盤一式が寄贈されました。秋田大学を昭和23年に卒業し囲碁部のOBである父、故・三浦幹夫さんが残した「若い学生に使ってほしい」という遺言に添い、教育文化学部の同窓会である旭水会を通じて今回の件が実現しました。

普段は部員同士で碁盤を囲み、不定期に秋田北高校の囲碁部と合同練習も行うほか、県内で開かれる囲碁の大会で棋譜をとる活動に参加するなど本格的です。以前は部員数が少ないことに悩んでいた同部ですが、平成28年は新入生の加入により現在は計15名で活動しています。部員が増え部室の碁盤・碁石が不足し、新たな購入を考えていた折に同部へ寄贈の話が舞い込みました。



碁盤贈呈式の様子

碁盤一式は5月末に手形キャンパス・大学会館2階の特別室で贈呈式が執り行われた後、正式に囲碁部のものとなりました。今回寄贈されたのは木製の碁盤、碁石は最高級品の本蛤(白石)と那智黒(黒石)、そしてそれぞれの専用ケースです。木製の碁盤は厚みがあり、全体を四足によって支えられています。状態は非常に良く、色だけでは年月を感じさせません。また、引き渡し時には三浦祐子さんより部員へ手紙が送られ、幹夫さんとの思い出や激励のメッセージが書き記されていました。

寄贈の話を受けた当時のことを囲碁部部長の山本伊知郎さん(理工学部物質科学科応用化学コース3年次)は突然の話で驚いたと言います。あえて秋田大学の囲碁部を選んでくれたことに関して、「非常に貴重なものでうれしい反面、責任も感じています。今後の活動の励みになりました」と山本さんは目を輝かせます。碁盤は現在すっかり囲碁部の日常に溶け込み、部員たちに囲まれています。パチッ、パチッと真剣な表情で碁石を並べていく部員の様子はどこか歴史を感じさせるものがありました。

記者:関山 大樹



秋田大学みらい創造基金

「修学支援事業寄附金」の設立について【予告】

秋田大学みらい創造基金では、特定基金に新たに「修学支援事業寄附金」の設立を予定しております。
この「修学支援事業寄附金」は、経済的な理由で修学に困難がある学生等への支援を行うことを目的としております。

【支援事業】

- | | |
|-------------|------------------------------|
| 1. 授業料等減免事業 | 3. 留学支援事業 |
| 2. 奨学金事業 | 4. ティーチングアシスタント・リサーチアシスタント事業 |

【税制上の優遇措置】

平成28年の税制改正により、従来の「所得控除」に加え、「税額控除」が導入されました。本学が設立予定の「修学支援事業寄附金」は、税額控除の対象となります。

この税額控除は、従前の所得控除に比較して、多くの方にとって減税効果が大きくっております。

(控除を受けるには、確定申告の手続きが必要です。)

※修学支援事業寄附金は、文部科学省からの承認を得てからの受入開始となります。(受入開始時期は本学ホームページ等によりお知らせいたします。)

〈お問い合わせ〉

秋田大学みらい創造基金事務局(総務企画課内)
☎018-889-3266 メールkikin@jimu.akita-u.ac.jp

FCECO

創業1964年

ファーンネス化工機株式会社
FURNACE KAKOKI CO., LTD.

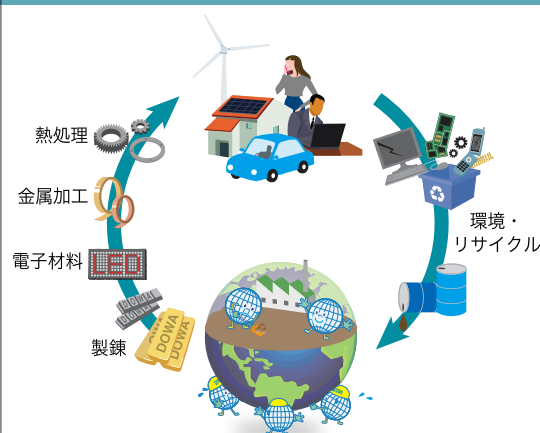


AL-FeC デュアルファーンネス (アルフェックデュアルファーンネス)
・アルミT-6処理、炭素鋼無酸化ハイスピード熱処理に最適

ファーンネス化工機株式会社

- 本社 〒220-0003 神奈川県横浜市西区楠町4-3
電話 (045)313-3061 FAX (045)314-3261
E-mail: fcoco@cocoa.ocn.ne.jp
- 綾瀬工場 〒252-1125 神奈川県綾瀬市吉岡東1-16-13
電話 (0467)78-8761 FAX (0467)78-8763
E-mail: fcoco@cocoa.ocn.ne.jp

DOWA が広げる 環境・リサイクルの「環」



DOWAホールディングス株式会社
http://www.dowa.co.jp

イベント&講座・講習会

Event, Seminar, Workshops & Extension course

催し物

教育文化学部天文台イベント

天文サイエンスカフェや大学教職員による天文講演会、45cm反射望遠鏡を使った夜間天体観察会を実施します。

- 11月 5日(土) 15:30～18:00
- 12月 3日(土) 15:30～18:00
- 1月 7日(土) 15:30～18:00
- 教育文化学部3号館3階301地学実験室ほか
- 対象／どなたでも
(夜間観察会は中学生以下、保護者同伴)
- 参加費／夜間観察会は保険料1人50円
- ☎018-889-2655(教育文化学部地学研究室)

メディカル・サイエンスカフェ・ネクストin小坂町

「高齢社会を明るく元気に生きる」をテーマに、医学や健康について分かりやすく解説します。

- 11月14日(月)13:30～15:15
- 小坂町 天使館(鹿角郡小坂町小坂鉱山古館35-6)
- 対象／どなたでも
- 参加費／無料
- ☎018-889-3201(地方創生・研究推進課)

公開講座

食生活を通して守る家族の健康
～栄養と食事に関する援助の視点から～

栄養学的視点および食べることに関する身体機能や援助方法について、分かりやすくお伝えします。

- 11月 2日(水)18:15～19:45
- 11月 9日(水)18:15～19:45
- 11月16日(水)18:15～19:55
- カレッジプラザ(秋田市中通2丁目1-51)
- 対象／どなたでも
(要事前申し込み、10月17日(月)締切)
- 受講料／1,500円
- ☎018-889-2270(地方創生・研究推進課)

サイコロジカル・カフェ

こころの不思議や健康について、最新の心理学の知見を分かりやすく紹介します。

- 11月11日(金) ●11月16日(水)
- 11月17日(木) ●11月18日(金)
- 11月24日(木) ●11月25日(金)
- 時間／18:15～19:45
- カレッジプラザ(秋田市中通2丁目1-51)
- 対象／どなたでも
(要事前申し込み、11月 4日(金)締切)
- 受講料／各回500円
- ☎018-889-2270(地方創生・研究推進課)

がんの痛みの治療教室

1. 第5回「からだのつらさ」
緩和ケアチームの医師・看護師・薬剤師が、がん性疼痛や緩和ケア、医療用麻酔薬などについて説明します。

- 11月15日(火)14:00～15:00
- 2. 第6回「がんによる気持ちのつらさ」
緩和ケアチームの臨床心理士が、がん患者さんが抱える不安や気分の落ち込み、がん患者さんのご家族が抱える不安などについてお話しします。
- 1月17日(火)14:00～15:00
- 医学部附属病院 院内図書室「ひだまり」
- 対象／どなたでも ●参加費／無料
- ☎018-884-6039(医事課医療サービス室)

ひだまり教室

1. 第4回「セカンドオピニオンについて」
がん相談支援センターの医師・看護師が、「セカンドオピニオン」について説明します。

- 11月17日(木)14:00～15:00
- 2. 第5回「在宅往診医とのお話会」
がん相談支援センターの看護師・社会福祉士、在宅医療連携外来担当の在宅往診医とのお話会を行います。
- 2月 9日(木)14:00～15:00
- 医学部附属病院 院内図書室「ひだまり」
- 対象／どなたでも ●参加費／無料
- ☎018-884-6039(医事課医療サービス室)

大学院第2次学生募集

修士や博士の学位取得を目指す社会人や、学び直し希望の方などの応募も歓迎しております。社会人特別入試や一般入試などの選抜方法があります。詳細は、秋田大学公式ホームページをご覧ください。

【大学院国際資源学研究科】

- 出願期間／平成29年1月6日(金)～12日(木)
[事前資格審査受付期間／平成28年11月24日(木)～28日(月)]
- 試験日／
博士前期課程(修士)：平成29年1月26日(木)、27日(金)
博士後期課程(博士)：平成29年1月26日(木)
- ☎018-889-3178 入試課(国際資源担当)



【大学院理工学研究科】

- 出願期間／平成29年1月4日(水)～11日(水)
[事前資格審査受付期間／平成28年11月21日(月)～25日(金)]
- 試験日／
博士前期課程(修士)：平成29年1月25日(水)、26日(木)
博士後期課程(博士)：平成29年1月25日(水)
- ☎018-889-2313 入試課(理工担当)



秋田大学みらい創造基金

ご協力をお願い申し上げます。

秋田大学は、多くの皆様からご協力いただいた「秋田大学教育研究支援基金」を引き継ぎ、平成26年11月に「秋田大学みらい創造基金」を創設いたしました。

この基金は、全学的な事業を支援する「一般基金」と、用途を特定した「特定基金」で構成され、現在、企業・団体や個人の皆様など多くの方々にご支援をいただいております。この基金は、教育・研究による社会への貢献という本学の使命を果たすための大きな支えとなっており、今後一層の拡充を図りながら、有効に活用させていただきます。

〈ご寄附のお願い〉 ●個人の方：一口 1,000円
●法人の方：一口 10,000円

この基金の趣旨をご理解いただき、なにとぞ複数口のご協力をお願いいたします。また、継続的なご寄附もお待ちしております。寄附者様のご都合に合わせた寄附方法・金額の設定が可能ですので、詳細は基金事務室へお問い合わせください。

〈ご寄附の方法〉

- 振込によるご寄附 ●クレジットカードによるご寄附
- 古本募金によるご寄附 ●遺贈によるご寄附

寄附のお申し込み、詳細につきましては、秋田大学公式ホームページをご覧ください。どうか、基金事務室までお問い合わせください。

一般基金

教育の質の向上及び研究の推進支援

- 1 横断的な教育・研究プロジェクトへの支援、次世代の研究を担う研究者の学際的・国際的な活動への支援、男女共同参画への支援等を行います。

卒業生・産業界等との連携支援

- 4 ホームカミングデー等同窓生が相互に連携できる活動を支援します。秋田大学の教育研究環境を活用し、多くの企業と共同で行う活動を支援します。

学生への奨学金等支援

- 2 学生、留学生への経済的支援、学生・団体への課外活動支援、教育文化学部附属学校園の活動支援を行います。

学部等への支援

- 5 学部・大学院等の教育研究の充実のため、機器、学術図書・雑誌等の充実・整備を図ります。

教職員・学生等の国際化・文化・社会活動等支援

- 3 秋田大学が持つ人的・物的資源を活用し、国際社会・地域社会で多様な形で行われる活動を支援します。

施設・環境整備の充実

- 6 教育研究環境をより発展的なものとするため、校舎や図書館、グラウンドなどの改修や整備を行い、キャンパス環境を充実させます。

特定基金

- ★ 病院寄附金
- ★ 教育文化学部寄附金
- ★ 理工学部寄附金
- ★ 修学支援事業寄附金(※)
- ★ 国際資源学部寄附金
- ★ 医学部寄附金
- ★ 附属学校園寄附金

※文部科学省へ申請中。詳細は11ページ下欄をご覧ください。

〈お申し込み・お問い合わせ先〉

秋田大学みらい創造基金事務室
〒010-8502
秋田市手形学園町1番1号
☎018-889-3266(総務企画課内)
kikin@jimu.akita-u.ac.jp

秋田大学みらい創造基金は秋田大学公式ホームページからお申し込みいただけます。
(http://www.akita-u.ac.jp/honbu/ed_fund/index.html)

秋田大学 みらい 検索

〈寄附者ご芳名〉この基金の趣旨にご賛同、ご協力いただきました皆様へ、心より感謝申し上げます。今後とも秋田大学の教育・研究活動等に対し、格段のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

企業・団体等

- 秋田大学生生活協同組合 様 ●秋田大学有志一同 様 ●秋田大学悠友会 様 ●一般財団法人丁酉会 様 ●北光会大学支部学生クラス委員 様

個人

- | | | | | | | | |
|----------|-----------|----------|-----------|-----------|----------|-----------|----------|
| ●秋元 義弘 様 | ●遠藤 恵子 様 | ●神本 昌宗 様 | ●近藤 克幸 様 | ●高橋 恵一 様 | ●西山 広明 様 | ●日隠 敏郎 様 | ●吉崎 和夫 様 |
| ●安藤 雪 様 | ●大高 麻衣子 様 | ●栗原 孝嘉 様 | ●佐々木 和子 様 | ●高橋 裕介 様 | ●畠山 和利 様 | ●松角 竜之介 様 | ●渡邊 基起 様 |
| ●市川 逸郎 様 | ●大平 芳久 様 | ●小澤 潤市 様 | ●佐藤 佑樹 様 | ●武田 篤 様 | ●畠山 仁 様 | ●山方 遥 様 | |
| ●伊藤 慶郎 様 | ●小川 敦子 様 | ●越川 充善 様 | ●澁谷 浩子 様 | ●立原 恵理子 様 | ●林 信太郎 様 | ●山田 久仁夫 様 | |
| ●岩原 香織 様 | ●神居 隆 様 | ●小林 禎子 様 | ●須藤 貴子 様 | ●田中 昭彦 様 | ●阪東 秀和 様 | ●山田 西彦 様 | |

他 匿名希望 15名様(延べ数) (平成28年6～8月末入金分 五十音順)